

日本文部省科研基金资助项目

古典日语

高校日语专业八级、研究生入学考试必备

语法应试指南

席卫国 编著

し ん に ほ ん ご

陕西师范大学出版总社有限公司

Shaanxi Normal University General Publishing House Co., Ltd.

日本文部省科研基金资助项目

古典日语

高校日语专业八级、研究生入学考试必备

语法应试指南

编著◎席卫国

审校◎高山明伦 因京子

陕西师范大学出版总社有限公司
Shaanxi Normal University General Publishing House Co., Ltd.

图书代号 JC12N0509

图书在版编目 (C I P) 数据

古典日语语法应试指南 / 席卫国编著. -- 西安 :
陕西师范大学出版总社有限公司, 2012.7
ISBN 978-7-5613-6248-8

I. ①古… II. ①席… III. ①日语 - 语法 - 指南
IV. ① H364-62

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2012) 第 116364 号

古典日语语法应试指南

席卫国 编著

责任编辑 曾学民
责任校对 张丽娟
封面设计 诗风设计
出版发行 陕西师范大学出版总社有限公司
(西安市长安南路 199 号 邮编 710062)
网 址 <http://www.snupg.com>
经 销 新华书店
印 刷 西安交通大学印刷厂
开 本 880mm × 1230mm 1/32
印 张 8
字 数 200 千
版 次 2012 年 7 月第 1 版
印 次 2012 年 7 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 978-7-5613-6248-8
定 价 30.00 元

读者购书、书店添货或发现印刷装订问题, 请与本社联系、调换。

电话: (029) 85303622 (传真) (029) 85307826

E - mail: 694935715@qq.com

前言

中国和日本是一衣带水的邻邦，有着悠久的历史文化交流史。近年来，随着改革开放的不断深入，中日间的政治、经济、文化等方面的交流日益增多。为了顺畅地进行交流，就需要日语语言功底较深厚的外语人才。深厚的语言功底不仅需要懂得现代日语，也要掌握古典日语。要想较完整地掌握日语，就需要掌握日语古典语法。掌握了古典日语语法，才能对现代日语中的谚语、惯用句、诗歌等理解得更透彻一些，也可以提高对日语古典文学名著的鉴赏能力。

2002年起至今实施的日语本科专业八级、研究生入学考试的内容也包括日语古典语法的知识，尤其是近几年更多地出现了日语古典文学方面的考题，考题的总量更是占到了总考题的百分之三十以上，从这一点就足以说明教育部高等学校外语教学指导委员会对日语古典文学语法的重视，并且考题的难度也在逐年提高。鉴于国家教育部对日语专业学生的日语古典文学语法知识的要求，为顺应日语专业考试的需求，编写该教材应该是非常必要的。

本人在日本攻读博士学位期间，前期阶段一直在日本著名的语言学家的指导下，从事了近五年的日语古典文学语法方面的研究。回国后，为了做好我校日语专业高年级的八级考试辅导，曾编写了系列的日本古典文学语法讲义，共八章三十二讲，在教学中一直使用。通过在教学不断了解到学生对本学科的要求和希望，并听取国外资深专家的宝贵意见和建议，

逐渐增添了许多新的知识，对学生在日语古典文学的理解以及语法点的理解上起到了很大的帮助作用，成了日语高年级考生的必备资料。

据了解到目前为止，全国各高校的日语专业古典日语方面除部分单纯的语法书外，系统的日语古典文学作品文法方面的教科书都还没有编写出来，甚至有很多高校，由于没有相应的教材，干脆就没有开设日语古典文学文法课程，报考日语专业八级的考生们只能是到处找资料，受到了很大的阻碍。可以说此书的出版将填补我国高校在日语教学中的一项空白，具有很大的社会效益。

本教材将按照教育部高等院校日语教学大纲的指导原则，适用于日语专业大学3年级下半学期和4年级上半学期的学生，日语专业研究生基础课及日语爱好者。本教材将以突出知识性、专业性和趣味性为主的编写理念，充分吸收以往的古典日语语法书中科学合理的部分，最大限度地反映这一学科的新的成熟的研究成果，尽量从科学发展的实际需要出发来设计和安排内容，其主要特色有以下几点：

1. 涵盖性广，连贯性强。本书包括古典日语中的动词、形容词、形容动词、助动词、助词、名词等内容。本书中所举出的例句尽量涵盖日语古典文学作品的各种体裁，而且，注重知识点的递进关系和连贯性，以提高古典语法知识的归纳性，并广泛接触日本古典作品，拓宽日语知识面。

2. 由浅入深，深入浅出。在语言表达上力求浅显易懂，疑难词汇都加了注音，特别是所举出的例句尽量由简单句逐步过渡到疑难句，达到轻松入门并逐步加深难度的学习效果。

3. 体系性和针对性强。内容能够适合其他相关课程的学习，有配套的练习题以及标准答案，

便于老师讲课和学生自主学习，通过本课程的学习，学生的日语水平一定会得到大幅度的提高。

4. 归纳性强、简洁易懂。结合日语专业八级、研究生入学考试，本书就近几年的八级、研究生入学考题进行了详细分析。从出题的频率以及使用频率方面进行了归纳性的总结，简洁易懂，以加强学生的归纳能力和理解记忆能力。

本书的出版，得到了日本文部科学省的项目赞助以及陕西师范大学出版社的大力支持，尤其是得到了日本九州大学的著名学者高山明伦教授及著名日语教育学家因京子教授的鼎力相助，再此表示由衷的谢意。由于本人的水平有限，错误之处有所难免，恳请读者及专家赐予宝贵意见，以助于今后的不断改进。

席卫国 博士

2012年4月 于陕西师范大学



目次

第一章 日本語古典文法基本知識	1
第1節 古典語と現代語との相違	1
第2節 古典語の歴史的仮名遣い	2
第3節 言葉の単位と品詞	4
第二章 古典日本語の助詞	9
【覚えましょう】	9
一、格助詞	9
二、接続助詞	11
三、副助詞	12
四、係助詞	13
五、終助詞	14
六、間投助詞	15
七、上代の助詞	15
【試験によく出すものを考えましょう】助詞ベスト 17	16
1. がに	16
2. さへ	17
3. して	18
4. すら	19
5. だに	20
6. てしがな・にしがな	22
7. など	23
8. なむ	24
9. にて	25

10. ばや	26
11. もがな・もが・もがも	27
12. もこそ・もぞ	28
13. もて	29
14. ものから	31
15. ものを	32
16. を	33
17. 一を・・・み	34
知恵の泉	36

第三章 古典日本語の助動詞 37

【覚えましょう】	37
一、過去の助動詞	37
二、完了の助動詞	37
三、推量の助動詞	38
四、伝聞・推定の助動詞	41
五、打消の助動詞	41
六、打消の助動詞	42
七、断定の助動詞	42
八、願望の助動詞	43
九、比況の助動詞	43
十、自発・可能・受身・尊敬の助動詞	43
十一、使役・尊敬の助動詞	44
十二、上代の助動詞	44
十三、複合助動詞	45
【試験によく出すものを考えましょう】終助詞ベスト 14	48
1. き・けり	48
2. たし	49
3. たまふ	50
4. つ	51
5. つべし・ぬべし	53
6. てけり・にけり	54

7. なり	55
8. ぬ	56
9. べらなり	57
10. まし	58
11. まほし	59
12. めり	61
13. らし・らむ	62
14. り	63
第四章 古典日本語の形容詞	65
【覚えましょう】	65
【試験によく出すものを考えましょう】 形容詞ベスト 31	66
1. あたらし	66
2. あやし	67
3. あやなし	68
4. あらまほし	69
5. ありがたし	71
6. いまめかし	72
7. うつくし	73
8. うるはし	74
9. おとなし	75
10. かたし	76
11. かなし	78
12. かまびすし	79
13. くすし	80
14. こころづきなし	81
15. こちなし	82
16. ことごとし	83
17. さうざうし	84
18. たいだいし	85
19. つきづきし	86
20. つきなし	88

21. ところせし	89
22. なめし	90
23. はづかし	91
24. びんなし	92
25. むづかし	93
26. めざまし	95
27. めでだし	96
28. やさし	97
29. ゆかし	98
30. よろし	99
31. わりなし	100
知恵の泉	102

第五章 古典日本語の形容動詞 103

【覚えましょう】	103
【試験によく出すものを考えましょう】 形容動詞ベスト 18	104
1. あからさまなり	104
2. あながちなり	105
3. あはれなり	106
4. あらはなり	107
5. いたづらなり	108
6. うちつけなり	109
7. おいらかなり	110
8. おぼろけなり	111
9. おろかなり	113
10. かたほなり	114
11. ことなり	115
12. さらなり	116
13. すずろなり	117
14. そぞろなり	118
15. なかなかなり	119
16. なめげなり	120

17. ふびんなり	121
18. むげなり	123
第六章 古典日本語の動詞	125
【覚えましょう】	125
一、動詞の活用の種類	125
二、動詞の音便	129
【試験によく出すものを考えましょう】動詞ベスト 30	118
1. あきらむ	130
2. あくがる	131
3. あさむ	133
4. ありく	134
5. おきつ	135
6. おこたる	136
7. おこなふ	137
8. おどろく	138
9. おほす	139
10. おほとのごもる	140
11. かしづく	142
12. かづく	143
13. かる	144
14. きこゆ	145
15. ぐす	146
16. くんず	147
17. しのぶ	148
18. そうす・けいす	149
19. たのむ	150
20. つかうまつる	151
21. つつむ	153
22. ながむ	154
23. 一なす	155
24. なやむ	156

25. ののしる	157
26. まうく	158
27. まかる	160
28. まもる	161
29. ものす	162
30. 一わたる	163
 第七章 古典日本語の副詞	165
【覚えましょう】	165
【試験によく出すものを考えましょう】副詞ベスト 19	168
1. いかで	168
2. いつしか	170
3. いと	171
4. うたて	172
5. え (え・・・ず)	173
6. おのづから	174
7. かたみに	175
8. げに	176
9. さながら	177
10. さらに	179
11. せめて	180
12. つゆ	181
13. とみに	182
14. な (な・・・そ)	183
15. など	184
16. やがて	185
17. ゆめ	186
18. よに	187
19. わざと	188
知恵の泉	190

第八章 古典日本語の名詞…………… 191

【覚えましょう】……………	191
【試験によく出すものを考えましょう】名詞ベスト 16 ……	192
1. あるじ ……	192
2. いそぎ ……	193
3. うへ ……	194
4. かげ ……	196
5. かたち ……	197
6. くもみ ……	198
7. けしき ……	199
8. けはひ ……	200
9. ざえ ……	201
10. せうそこ……………	203
11. たより……………	204
12. としごろ……………	205
13. ふみ……………	206
14. ほい……………	207
15. ほど……………	208
16. もの……………	209

第九章 古典日本語の接続詞…………… 211

【簡単に覚えましょう】……………	211
【試験によく出すものを考えましょう】接続詞ベスト 7 ……	212
1. さはれ ……	212
2. さらば ……	213
3. さりとも ……	215
4. さるは ……	216
5. さるを ……	217
6. されど ……	218

7. されば	219
知恵の泉	220
第十章 古典日本語の連語・慣用語	222
【試験によく出すものを考えましょう】連語・慣用語ベスト 12	222
1. あかず	222
2. ありつる	223
3. いかがはせむ	224
4. いざたまえ	225
5. えさらず	226
6. えならず	227
7. えもいはず	228
8. けしからず	229
9. こころゆく	231
10. さるべき	232
11. ねをなく	233
12. れいの	234
第十一章 古典日本語の感動詞	236
【覚えましょう】	236
【試験によく出すものを考えましょう】感動詞ベスト 8	237
1. あな	237
2. あなかま	237
3. あはれ	237
4. いかにか	238
5. いさ	238
6. いざ	238
7. いで	239
8. いな	239
参考文献	240
用例出典	241

第一章

日本語古典文法基本知識



第1節 古典語と現代語との相違

一、 古典語の歴史的仮名使い

語頭以外の「はひふへほ」を「わいうえお」と読み、「いう」を「ゆう」と読む。

二、 古典語では、助詞「が」「は」が省略されることが多い。

- ① 昔、男（が）ありけり。
- ② いさぎ（を）追ひしあの山。

三、 古典語では、連体形の下にくる体言（名詞）や助詞（の）が省略されることがある。

- ① 梅は白き（うめ）、うす紅梅。
- ② 庭の荒れたる（の）を嘆く。

四、 古典語の用言（動詞・形容詞・形容動詞）の活用は、現代語と違うところがある。三品詞とも古典語より現代語の方が活用の種類はふえる。しかも、第五活用形として古典語の「已然形」は、現代語では「仮定形」という。

五、 古典語には係り結びという特殊なきまりがある。

- ① 花なむ咲く。

六、 古典語の助動詞・助詞は、現代語と違う単語が多い。

現代語の推量の助動詞「う・よう」は、古典語では推量の助動詞

「む」である。



第2節 古典語の歴史的仮名遣い

一、いろは歌と五十音図

(一) いろは歌

色は匂へど散りぬるを

我が世たれぞ常ならむ

有為の奥山今日越えて

浅き夢見じ酔ひもせず

(二) 五十音図

	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
ア 行	あ	い	う	え	お
カ 行	か	き	く	け	こ
サ 行	さ	し	す	せ	そ
タ 行	た	ち	つ	て	と
ナ 行	な	に	ぬ	ね	の
ハ 行	は	ひ	ふ	へ	ほ
マ 行	ま	み	む	め	も
ヤ 行	や	い	ゆ	え	よ
ラ 行	ら	り	る	れ	ろ
ワ 行	わ	ゐ	う	ゑ	を

二、歴史的仮名遣いの読み方

- (一) 古文では歴史的仮名遣いが使われるが、これを読む時の原則は次の通りである。

1	語頭以外のハ行音→ワ行音 いへ（家）→ いえ きのふ（昨日）→ きのう
2	a+u →0 （あう→おう） あうぎ（扇）→ おうぎ かうし（格子）→ こうし
3	i+u → yu（いう→ゆう） きう（急）→ きゅう にふだう（入道）→ にゅうどう
4	e+u→yo（えう→よう） てふ（蝶）→ ちょう せうえう（逍遙）→ しょうよう
5	「くわ」「ぐわ」→「か」「が」 くわんゐ（官位）→ かんい くわいし（懷紙）→ かいし
6	「ゐ」「ゑ」「を」→ 「い」「え」「お」 ゑむ（笑む）→ えむ をんな（女）→ おんな
7	「ぢ」「づ」→ 「じ」「ず」 ぢげ（地下）→ じげ みづ（水）→ みず

（二） 動詞の活用語におけるイ音・エ音の表記の区別は以下のとおりである。

1. 「い」「ゐ」と書くのは、次の八語で、そのほかはすべて「ひ」である。

い	射（い）る・鑄（い）る（ヤ行上一） 老い・悔い・報い（ヤ行上一）
ゐ	居る・率る・率ゐる（ワ行上一）

2. 「え」「ゑ」と書くのは、次のような語で、そのほかはすべて「へ」である。